

第十二回 玄和全国競書大会優秀作品



鈴木 蘭嘉

審査所感

先ずは、この度の東北地方太平洋沖地震により罹災された皆さま、ならびにそのご家族、関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。罹災地の一日も早い復興と皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

今回も例年通り十一月二十三日、玄和書道会文化院にて、一般部審査員、学生部審査員計十二名、審査補助十二名合計二十四名の先生方で、第一次審査より第三次審査まで一日かけて実施しました。本年は学生部約一八〇〇点、一般部約一〇〇〇点の出品があり、一般部、学生部共に若干の増加がありました。東北の大震災の影響や書道人口が減少する中、各支部長先生や会員の皆さんの前向きな学習努力によって書に興味を持つ人が少しでも増えていることは、大変喜ばしい事と存じます。

さて作品内容ですが、低学年では紙面全体を使用的のびと書かれていて、名前なども丁寧に書かれ指導者のご努力が見える作品でした。高学年になると筆遣いや字形にも高いレベルが感じられる作品が見られました。が名前も作品の一部として考えて欲しい作品もありました。高校作品では古典の臨書を中心に書かれて

— 玄和書道会賞 —



ケレハー謙汰(高三)



竹下 青祥



宮川ひより(小二)



深川 泉紀(小六)



山崎 亮(中三)

いて、自身の作品に適した筆や墨を吟味して書かれたものや、古典の趣を自分のものとして書かれているものもあり、将来が楽しみです。

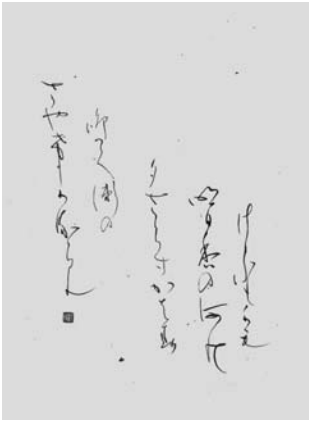
一般部では行草、仮名、隸書、近代詩などバラエティーに富み、審査をしていて飽きることはありませんでした。三行作品はさすがに玄和書道会の会員作品で高いレベルでの審査になり苦労致しました。ただ、字にあやふやなものや筆法に不自然なものなどがあつたのが残念です。二行以下の少字数に迫力不足や線に力がないもの、構成やもう少し字に大小を入れた方がよいのではと思われる作品もありました。もう少し線質の強さが出る勉強もして欲しいと思います。

全体としては一年間の勉強の成果がかなり出ているようで、今年も高いレベルの作品が多く出品されたと思います。ただ、やはりあやふやな字をなくすには、文字は自分の手で調べることに、辞書は二、三冊使うようにしていただければと思います。

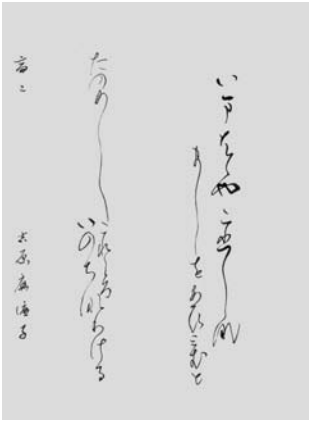
最後に多数出品にご協力して戴いた支部長様や審査会までの間ご準備にご努力戴いた先生方やスタッフの方々に感謝申し上げます。

審査委員長 窪田 華岳

— 春 浦 賞 —



江戸 澄峰



吉原麻優子(高二)



遠藤美代子



山口 歳子



坂本百合子(小三)



天野 未結(小四)



鋤柄 孝行(中二)



会田千恵子



ケレハー翔太(高一)



飯田 静香



北原加枝子



木戸 彩瑛(小一)



渡辺 陽香(小五)



石丸 由姫(中一)